

平成 27 年 7 月 9 日

訪日教育旅行の現状

公益財団法人全国修学旅行研究協会
調査研究部長 石原 輝紀

世界的にグローバル化が進行する中で、異文化理解に立った学校間交流の重要性が叫ばれている。特にアジア諸国では、「修学旅行」という制度はなくても、それに類した形をとって子ども達の交流を求める声が高まっている。

これから多くの子ども達が世界的に活躍するためには、異なった価値体系の文化を受容する学習過程が必要となると考える。

『訪日教育旅行の現状・課題について』

現在、当協会においては日本国内の学校の「海外修学旅行」の実施状況調査は毎年行っているが、「訪日教育旅行」については行っていない。数字的に言えば、文部科学省が隔年で調査されている「高等学校等における国際交流等の状況について」の中の「学校訪問を伴う外国からの教育旅行の受入れについて」で発表されている延べ 1,315 校、28,663 人（平成 25 年度）というデータが現状かと思う。これより検討を重ねる受入促進についての課題は、過去に（平成 17 年）当協会において訪日教育旅行の現状を調査すべく行ったアンケートにより、取り纏めた課題と現在も大きく変わっていないと思われるため本資料の提供を致します。

〔参考資料〕『外国から修学旅行等で訪日する学校との交流について』

（平成 17 年 1 月実施：東京・神奈川・埼玉・千葉の私立高校 424 校対象調査）

1. 修学旅行等で訪日した海外の学校の受け入れ状況について
2. 海外の学校受入の目的
3. 今後、修学旅行等で訪日する海外の学校の受け入れ・交流の意志について
4. 受入・交流を希望する相手国
5. 希望する交流方法

〈その他〉訪日校の受入・交流についての意見、要望、課題など

以上

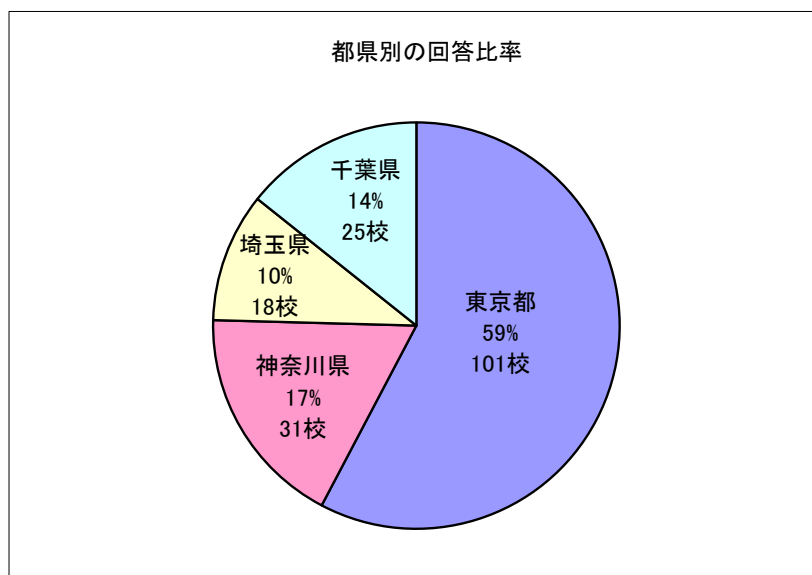
「外国から修学旅行等で訪日する学校との交流について」調査報告

I 調査概要

東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県の全ての私立高等学校を対象として、訪日する海外の学校の受け入れ状況、ならびに今後の受け入れ・交流の希望について調査を行った。調査対象は424校。内、175校から回答を得た。（回答率41.3%）

都県別の回答状況 単位（校）

東京都	神奈川県	埼玉県	千葉県	計
101	31	18	25	175



II 調査期日：平成17年1月現在

III 調査項目：

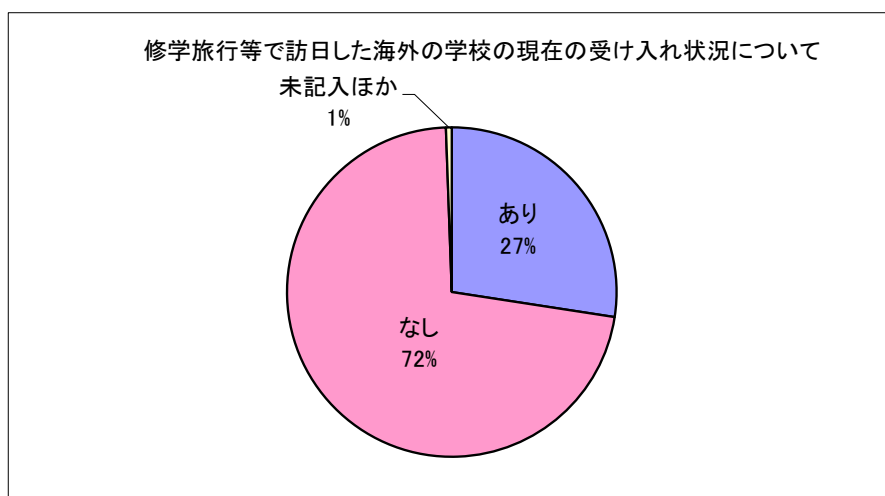
- ア. 現在の修学旅行等による訪日校の受け入れ状況、及びその目的について
- イ. 今後の訪日校の受け入れ意志の有無、希望する相手国、交流方法について

1. 修学旅行等で訪日した海外の学校の現在の受け入れ状況について

全回答校の内、現在、27%の学校が、修学旅行等で訪日した海外の学校を実際に受け入れているとの回答を示した。但し、100名を超えるような学年単位の規模での受け入れを行っている学校はわずか2校であり、10～20名程度の小規模の受け入れの状況が、大多数を占めている。

また、過去数年で複数回の受け入れを行った学校は32校。内、18校が同一国からの受け入れを継続しており、残り14校が2カ国以上の相手国からの受け入れを行っている。

単位（校）		
あり	なし	未記入ほか
48	126	1



2. 海外の学校受け入れの目的（複数回答）

現在、海外の学校を受け入れる目的として、実施校の6割の学校が「姉妹校」関係による学校間交流をあげている。また、これに準じて自校の海外修学旅行時の訪問相手校など、特定の相手国及び交流校との間で継続的に訪問を受け入れている事例も多く見られる。

また、音楽・美術などの芸術面やスポーツ、語学など、特定の明確なテーマをもとに該当の生徒同士による限定された交流が行われている点も興味深い。

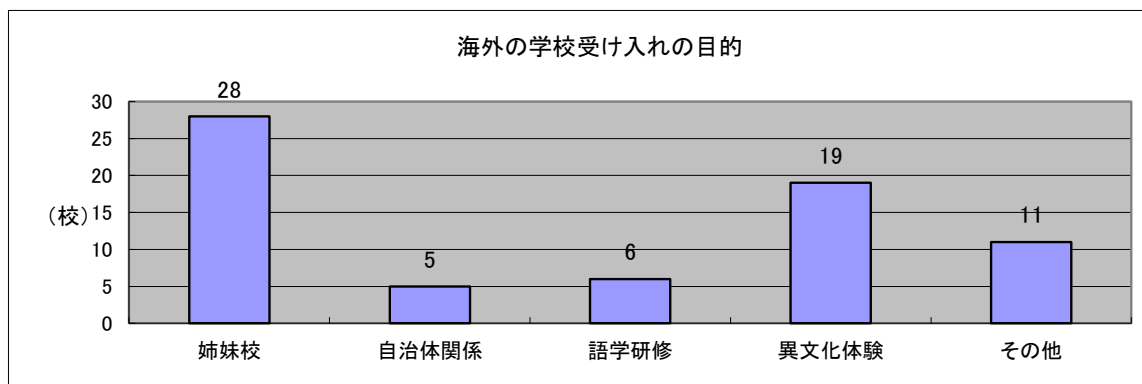
具体的な交流内容としては、授業・行事への参加が最も多く、受け入れ数が小規模なものについてはホームステイも積極的に取り入れられている。

単位（校）				
姉妹校	自治体関係	語学研修	異文化体験	その他
28	5	6	19	11

※その他の内訳

「学校間交流の一環」…3、「自校生徒の修学旅行での交流にともなって」…2

「『世界教室』開催」、「高校卒業後の進路」、「独自に現地のジャパンセンターとの交流」、「美術教育とその成果」、「ラグビー部員の交流」、「姉妹校とこれを前提とした交流」が各1



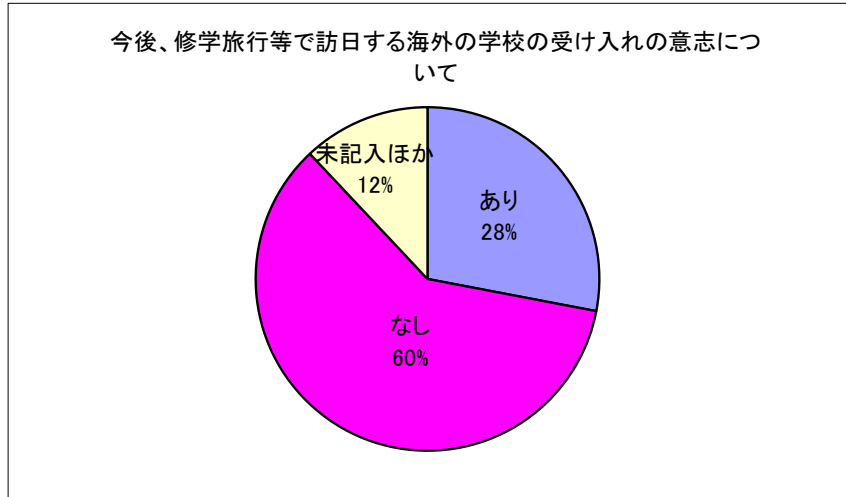
3. 今後、修学旅行等で訪日する海外の学校の受け入れ・交流の意志について

修学旅行等で訪日する海外の学校の受け入れについて、積極的な肯定の意思を示した学校は、全回答校の内28%、49校に上った。

また、未記入や現時点では難しいと回答した学校の中にも、海外校との交流を今後の課題として具体的に検討している学校も見られ、今後、受け入れを希望する学校は増加するものと見込まれる。

一方、交流に否定的な見解を示した学校の多くは、現行の学校カリキュラム内での受け入れが時間的、人的、また施設の困難であるとの理由をあげている。

単位（校）		
あり	なし	未記入ほか
49	105	21



4. 受け入れ・交流を希望する相手国（複数回答）

日本からの修学旅行先としても、近年特に人気の高まっているオーストラリア・ニュージーランドといったオセアニア圏の学校を、交流の相手先として希望する学校が40校と、特に多くなっている。

但し、全体的に今後の受け入れ・交流希望の相手国は分散しており、英語圏のみならず、韓国・中国・台湾をはじめ、アジア圏の国々を対象国として想定している学校も数多く見られた。

一方で、受け入れの意思は示しながらも、その対象校はあくまで姉妹校関係の学校に限定と回答した学校も、数校あった。

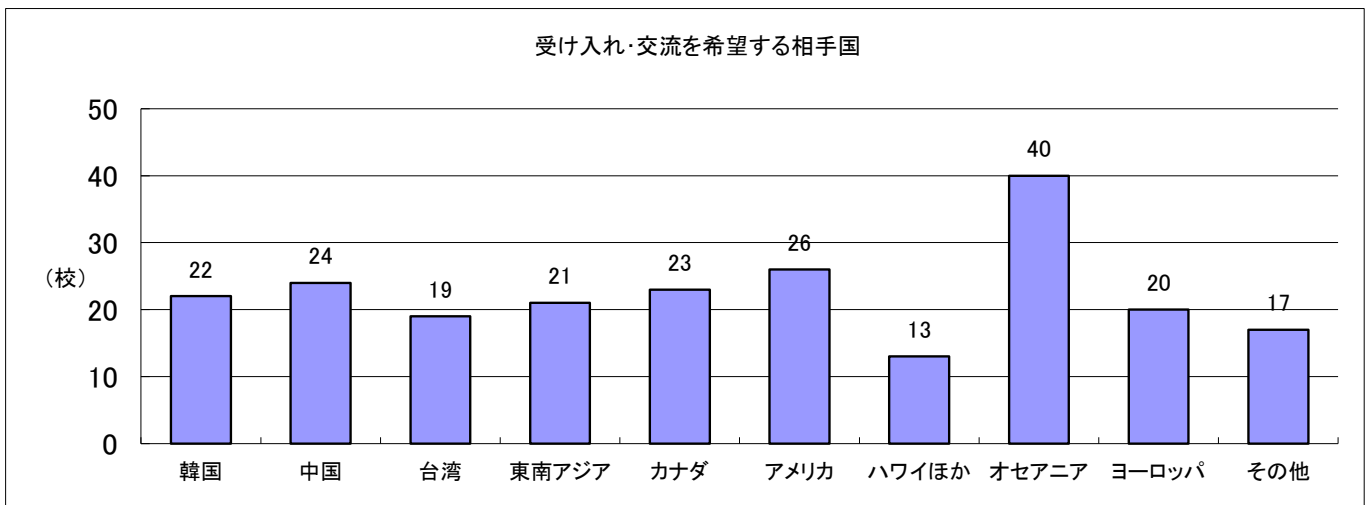
単位（校）									
韓国	中国	台湾	東南アジア	カナダ	アメリカ	ハワイほか	オセアニア	ヨーロッパ	その他
22	24	19	21	23	26	13	40	20	17

※その他の内訳

「全て（の国）OK」…5、「姉妹校のみ」…5

「アジア諸国」、「フランス」、「ニュージーランド」、「多少の英語でコミュニケーションOKならどこでも可」、

「今後の検討課題」、「カトリック・ミッションスクールとの交流」、「未定」が各1

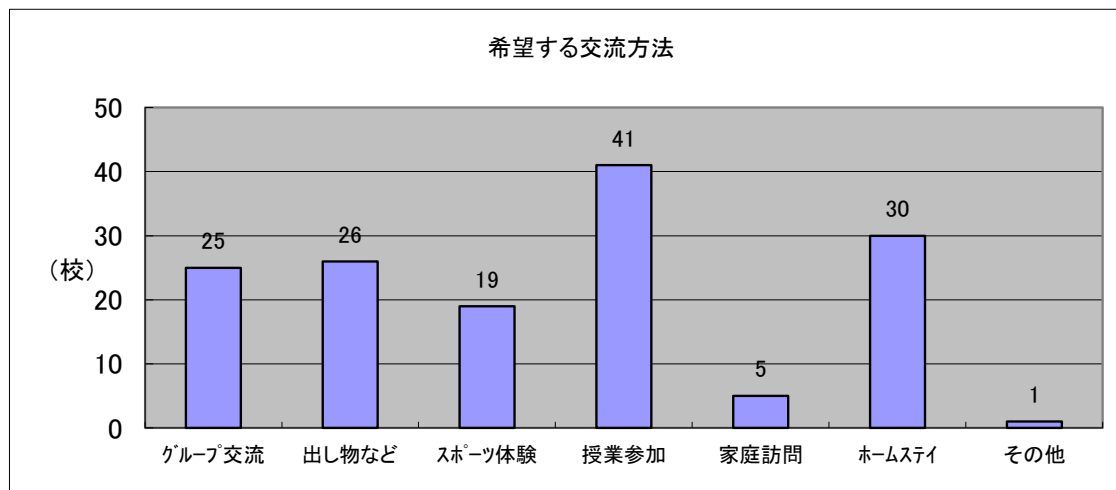


5. 希望する交流方法（複数回答）

具体的な交流内容としては、「授業参加」が最も多く41校が希望している。次いで「ホームステイ」を30校が回答しているが、同時に、相手校の規模によって、ホームステイ先の確保に多少の危惧をもっているとの意見も見られた。

単位（校）						
グループ交流	出し物など	スポーツ体験	授業参加	家庭訪問	ホームステイ	その他
25	26	19	41	5	30	1

※その他の内訳
・「検討中」…1



〈その他〉訪日校の受入・交流についての意見・要望・課題など

- ・当面、姉妹校の受け入れ・交流の継続にとどめる・・・8校
- ・受入態勢の不備、年間計画、スタッフ、施設等の関係で受入が困難・・・7校
- ・今後、将来的にも重要な課題として検討中・・・7校
- ・他校の受け入れ、交流状況の情報がほしい・・・4校
- ・個人の留学については積極的に交流・・・4校
- ・自校の海外修学旅行及び研修旅行時の訪問校の受入れ・・・2校
- ・相互交流として行っていきたい・・・2校
- ・受入の意思・交流の希望があるが、ホームステイ先の確保が困難・・・2校
- ・国際交流及び訪日を希望する学校の情報がほしい・・・2校
- ・相手校の選定に十分な下準備が必要・・・2校
- ・時期、期間、実施学年など諸条件を考慮しながら行いたい・・・2校
- （以下1校ずつ）
- ・国際コースの設置。中国語などの授業も取り入れ、海外交流は推進したい
- ・通常授業への参加が中心。語学レベルなど満足できるプログラムになるかが課題
- ・外国の学校に修学旅行という活動があるのなら、交流の在り方を考えてみたい
- ・当面は英語圏を考えている
- ・永続性が重要
- ・通訳者が不足していることが課題
- ・当面は希望生徒の不定期な交流に留まる
- ・海外修学旅行も恒例化しない状況、当面の受入は考えられない